HE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治十九年十二月五日

定價金四錢

女學雜誌

第四十四號

每月三回發行

續文

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

目録

〔女學叢誌〕女子にも財産を遺傳すべし●〔中外新報〕數十件●〔學藝一班〕幼兒教育學○理學一班●〔對譯〕泰西の諺○婦人の心得●〔列女傳〕習女梅澤豊の傳●〔雜記〕〔〕東京流行の髮飾○學校家庭子女輕過微傷手當法（前々號の續き）○婦人の心得（對譯欄内の譯）●〔新作物語〕巣守の妻第十一回（春のや主人稿）●〔家政要報〕嫢婢の事（前號の續き）其他數件●〔御伽草〕○書工のはなし○隱す事は我より顯はるゝ○數學問題○考へものゝ題○前々號數學問題の答式●〔寄書〕○姙婦の攝生法

◎女學叢誌

女子にも財産を遺傳すべし

常に余輩の主張する社會の改良とは世の中にありて事々物々の進化する定則を標準として益々進化の程度を進めんと欲することにて強ちに一も二もなく歐米諸國の眞似をなさんとのみいふにはあらざれども歐米諸國の文明社會は即ちこの定則に從つて今日の文明國となり我が社會に先だちて進化の程度遙に進みたるの社會なるからには即ち歐米文明社會の有樣を以て我が社會改良の標準とするもまた敢て異るところなかるべしさらば我が社會の進歩を圖り我が國をして文明國たらしめんとすることは取りも直さず歐米諸國文明社會の仲間入りとなさんといふに外ならず然るに彼方にては男女卓を同うして食するに此方にては男女席を同じうせずといひ彼所にては男女互ひに手を取り合ひて蹈舞をなすに此所にては夫を天とし敬ふべしといふがごとき有樣にてあらん限りは中々に仲間入りをなさんことと思ひもよらざるところなりされば我が社會に於て事々物々一として改良を要せざるものはあらざるが中に就き最も先だちて改良を要すべきは男女の關係にてぞある即ち男尊女卑の鄙風を改め男女同權の雅びたる文明風となさんこと我が社會改良の順序において最も急務とこそは思はるれ

扨てまた男女同權たらんことを欲すれば女子に職業なくんばあらざるなり凡そ世の中のことは何ごとに就きても權利あれば義務あり義務を盡さずしていかでか權利を得ることの叶ふべき苟しくも權利を得んと欲すれば必ずまづ義務を盡さずんばあらざるなり嘗て屢々余輩の述べたてたるがごとく世の中の仕事をば男子のみに任せおかずして女子もまた男子同樣に働き男子同樣に稼ぎ男子の厄介ともならず男子の脛をも嚙らず女は女丈けの義務を盡してこそ始めて權利をいふべけれいまだ義務を盡さずしていかで權利の得らるべき働らかずして食ひ勞せずして得るところあらんと欲する時は依然男子の奴隷たらざるを得ずされば男女同權たらんには必ず男子同樣に

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

働き男子同様に稼がざるを得ず男子同様に働き男子同様に稼がんにハ女子にもまた男子同様の職業なくんバあらざるなり如何に働き如何に稼がんと欲するも腕に覺えの職業と知らざる時ハ何事の仕事とかなし得べきこれ余輩の男女同權たらんにハ必ず女子に職業なくんばあらずといふ所以なり

斯くて男子と同様に稼がんとするにハ女子にもまた男子同様の資本なくんばあらざるなり女子にも男子同様の職業と敎へたればとて直ちに男子同様の仕事をなし男子同様に働き男子同様に稼ぎ得らるべしとハいふべからず世に職業もまたその種類多かるべしといへども資本を要せずして働らき得らるゝ仕事はいと稀なることならんさらバ男女同權を欲するときハ女子にもまた男子同様の資本を持しむべきこと極めて必要なりと思ふなり然るに我が邦從來の風習にて財産を所有するものハ男子に限りたるものゝごとき有様にて女子ハたゞ簞笥長持と身の廻りのものを所有するに過ぎず世の財産ハ擧て男子の手に歸したる姿なるがゆゑに女子ハ男子に依賴して生活するの外他にその道なきもまゝ尤も至極といふべきなり同じ家に生れながらその家の財産をば男子のみに遺傳て女子をば三界に家なしといへる哀れ敢果なき身の上たらしむるハ封建制度の遺習なりとハいへ最早今日となりてハ不都合千万なる仕方とこそハいふべけれ余輩ハ前々號に於て一家族中稼ぎ人働き手たるものハその家の主人たる男子一人にしてその他ハ皆主人の腕にのみ依賴し主人一人の脛を噛りてのみ生活するものなれバ主人たるものゝ骨打もまた非常なりといひたりしが財産遺傳の一方よりいふ時ハこの骨打ハ即ち一人して財産の遺傳を受けたるの結果にして迯るべからざるの義務といふべきなり斯く義務も權利も男子のみに偏るべきの道理なければ女子にも男子同様に財産を遺傳して男子同様の資本を有せしめその資本に依て男子同様に稼がしむべきこと目下の急務なり男子と同様の資本なくしてハ如何はど腕に覺えの職業あればとていかでか男子同様に稼がるべき

されば我が社會の進歩を圖り我が國の文明を望まんにハ男女の關係を改良し男女同權たらずんばあらざるなり男女同權たらんにハ女子に職業を敎へて男子同様に稼がしむべきなり男子同様に稼がしめんにハまた男子同様の資本なくんバあらざるなり男子同様の資本を有せしめんにハ女子にもまた男子同様に財産を遺傳すべきこと目今の急務なり女子に財産を有せしめずしてハ歐米諸國文明社會の仲間入り叶ふべからず

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

◎中外新報

◎皇后宮の御装飾　伯林府の寶珠商ハ嚮きに我が皇后宮の御用品となるべき金剛石入りの冠冕と襟飾りとの製造を命ぜられたるがこのほど愈々成就したれバ不日納品の都合にてその價ハ數十萬圓なりと外國新聞に見ゆと去る三十日の郵便報知新聞に掲げたり

◎皇子明宮殿下　にハ去る廿五日深川なる明治小學校へ成らさせ給ひ生徒授業の實況を御覽ぜたりと承る

◎日本音樂會　文部書記官伊澤修二および陸軍省御雇佛國人ルヽーの兩氏が發起にて今度日本音樂會といふを組織せんと專ら會員を募らるゝよしに聞く

◎洋食會　鍋嶋、蜂須賀、高木(兼寛)等の夫人がたを始めその他華族陸海軍々醫方の夫人數十名申し合され今度題號のごとき會を創設せられたるがこの會ハ華族ハ素より貴顯紳士の夫人令孃がたハ從來深窓に成長ありて世事に慣れ給はざる傾きありしも今ハ追々海外人とも交際して同じ卓上に食事する事も屢々あるべき世となり洋食の喰ひかたにも慣れ給はずてハあるべからずとの用意より起りたるものゝ由にて毎月三回づつ適宜の場所に集會せらるゝことに定められしと聞きたるが英國などにてハ婦人の樂しみに時々菓子持寄會或ハ料理獻立の奇を競ひて相互ひに呼び合ふことなどありと聞けば我が貴夫人がたも序に料理法或ハその獻立等のことにまで及ぼし斯くすれバ經濟なり味ひ美なりなど研究の爲め自家の料理を以て互ひに招き合はるゝこともあらんにハ食物調理法改良の一端ともなり旁々利益多かるべしと思ふなり

◎高等女學校　にてハ今度運動法を改正せらるゝよしにて目下その筋に於て取調中なりといふ

◎淑女館　本所横網町二丁目の同館ハ外國人との交際に必要なる英語學を始めその他婦女子に必要なる諸學科を教授する學校にて專ら婦人の地位を進むるの目的を以て設けたるよしにて今度家業に忙しく通學の出來兼ぬる婦人がたへハ需めに應じ夫々の教師を派出することに定められしといふ至極結構のことなりまた日曜日にハ茶の湯活花などをも教授するとの事なるが是らのことハ老後の樂しみに自ら師を需めて稽古するハ兎も角く學校に於て教授すべき業にもあらざるべしと思ふなり活花のことハ室内の装飾に多少の必得となるべけれどもさりとて學校に於て教授するほどの事もあるまじ殊に茶

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の湯などハ今の世ょ用なきものならん

○共立女子職業學校　神田錦町なる同校ハ益々盛大に赴き生徒も隨て追々進歩そるの有様なるが適當の運動法ハ裁法ろの他居職の生徒にハ殊に必要なれバ適當なる運動法と設けんとて目下協議中のよし

○婦人編物會　日本橋區本両替町なる同會にてハ今度外國教師を聘し所望の生徒へハ英語學を教授することゝなりし由に聞くされバ増々盛大に赴くべし

○英語かるた　この頃市中にて英語かるたを弄遊ぶ小供を見受くること屢々なるハ語學の増々開け行く徴候なるべしと舍友の物語り

○英語教課書　ろの筋ょて編纂中なる小學校用英語教課書ハ來年一月中にハ發兌せらるゝ運びなりといふ

○有馬小學校　蠣殼町有馬小學校女生徒五級生以上ハ今度和服を全廢して洋服に改むるよしにて差向き洋服の資にさし支ふるものハろれまで筒袖を着用することゝなりたりと右ハ近々明宮殿下の御遊覽あらせらるゝよしなるに付てのとありといふと時事新報に見えたりまた同校にてハ今度英語科を設け高等生徒に教授することゝなりしよし

○東京レース製造所　にてハ先つころより卒業生數名を呼び出し宮內省御用品の製造中なりしが追々工事も捗り來る五日ごろまでにハ悉皆出來上る都合なりといふと去る一日の時事新報に見えたり

○女子十八名の建議　筑前福岡にて妙齡有志の女子十八名ハ福岡尋常師範學校女子生徒募集の儀に付縣會議長中村耕介氏に宛て一篇の建議書と出せしよしにて議長ハ去る十九日の縣會に於て議員の參考に供そる旨を述べ右の建議を朗讀せしめたりと先月廿五日の郵便報知新聞に出づ

○大日本教育會　の十二月常集會ハ第二日曜日（即ち十二日）午後一時より例のごとく神田一ッ橋外第一高等中學校構內帝國大學講義室に於て開かるゝよしなるが當日ハ女子師範學校の幹事豊田芙雄女史にも演說せらるゝよし

○鈴木弘恭先生　小石川竹早町の同氏ハ今度學習院の助教を辞し閑暇の身となられたれバ人々の望みに任せ何れにても出張して和文章及び和歌なとを教授せらるとのこと

○福嶋縣須賀川村通信（鹿又まつなへ君報）　福嶋縣岩瀨郡須賀川村ハ村とハいへど戶數千四百七十九、人口六千五百九十三の大村にして郡役所あり警察署あり電信分局あり學校ハ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

小學校一つあり扨て女子の有樣といへばおしなべて鄙猥の風ありその樂しみとするところは芝居見物、盆踊りの外は知らざるもの〻如し併し小學校内よ設けある裁縫專門科（現に生徒の數四十八人許り）生徒のごときは後來に望みあるやう見受けらるまた同小學校にては女子の敎育に最も意を注がれ本月初旬（十一月）東京女子師範學校の卒業生高嶋から氏を聘しまた府縣立女子師範學校の卒業生二三名を雇ひ入べき計畫中なれば追々には須賀川市中婦人の風儀を一變するの時あるべし當地方の惡習は（第一）早婚の弊にして女子十七八歲に至れば結婚す若し廿歲前後に至り結婚せざるものある時は人これを卑しみ己れもまた耻とするの風あり（第二）淫猥の風ありて爲す業もなき婦女子などは夜々竊に爲すべからざる醜行ありと聞く下等の女子などにありては籬を踰ゆるの風盛んにして却て之を人に誇るの有樣なるはいと惡むべき風なり（第三）維新前までは此の地方に於て墮胎はものかは赤子の生るゝや直ちよこれを殺すの惡風ありしと聞く位ゐなるがゆゑ今尚は斯る惡風俗の存せざるを保難しなどいふものあれども眞逆に彌開けに開け行く今の世の中にさる事のあるべき追々には文明の德に浴して風俗の改まることとあらんと思はる

◎學藝一斑

○幼兒敎育學

（幼兒學校に於て同時授業法の必要）　我々が通例幼兒學校においてよく見受くる集合授業法あるひは同室授業法と稱へて同時授業法の行はるゝは即はち前節に述べたるがごとき道理に基づきたるものにてたゞ便利の一方よりかゝる授業法を行ふにはあらざるなり小兒を別々に敎授するときは他の助けなくいと六かしきことゝなれどもこれを集めて敎授するときは助けとなるもの多くて取り扱ひ易しといふたゞ便法のみのゆゑにもあらずまた別々に敎授するよりも時間を省くが爲めのミにもあらざるなりかゝる事柄よりも今一層高尙ある必要あるがゆゑなり

（適當なる練習）　この同一の敎授は學校内殆んど半ばこれに出るものにて是までに述べ來りたるごとくまたこの先きに於て委しく說明するがごとく各種の課業練習もまたこの中に含有せり然るに小兒が智識の或る機關の一部を得る手練は別く々のものにして成るべく一個別々の行爲を要することなりこれを區別の主義といふ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○理學一斑

(第十七節)重量の事　次ぎに重量のことを述べんに何物にても地上にあるものと擧ぐるときか或ハまた手の上に載せたるときその物の影響と感ずべしこれその物の重量にてまた何物にても地上より上の途宙に載せおくときこの載せたるものを取れば忽ち地上に落るを重量といふ今こゝに地上といふハ取りも直さず地球の外面よて總て重量を有するものハ皆地球の外面に向つて落つるといふを得べし而して地球の外面ハ何れの場所よても更らに異る所なし雨ハ水滴の落るものなれども日本も支那も倫敦も紐育も異る所なく皆地上に向つて落つるを見るのみ然るに地球ハ圓きものにて譬へバ米國ハ我が日本の反對にある國なるに同時に雨降ることありとするも同じく何れの國に於ても皆地上に向つて落るなり即ち他の一方と恰も反對の方向に落つる事なりこれ卽ち地球の外面に落るとハ地球の中心に向つて落つるといふことゝなりされバ何物にても重量あるものハ地球の中心に向ふの力ありて重量とハこの地球の中心に向ふの力をいふ何物にても重きものなりといふハこの落つる力らあるものにて若しこれを支ふるときハその力らを感ずるを物の重量とハいふなり

◎對譯

(甲)㊀嘘言(ハ)㊁一の㊂足(を)㊃持つ㊄莫し㊅然れども㊆誹謗(は)羽(を)㊈持つ

(乙)㊀総て㊁夫ハ㊂金袋(に)㊃やって㊄㊅得たる㊆物(は)㊇儲け(で)㊈ある㊉莫し

(この對譯ハ前の分と〻もに雜記欄内の終りに掲げたり)

MAXIMS & PROVERBS.

(甲) A lie has no legs, but scandal has wings.
㊀ ㊃ ㊄㊁㊂ ㊅ ㊆ ㊈ ㊇

(意譯) 嘘言ハ足を持たざれども誹謗ハ羽あり

(乙) All is not gain that is got into the purse.
㊀ ㊈ ㊉ ㊇ ㊁㊆ ㊅ ㊄ ㊃ ㊂

(意譯) 金袋よ泒入ツた物ハ皆儲けでハなし

DON'T (NASUBEKARAZU).

Affectionately addressed to Womankind.

DON'T submit servilely to fashion. Believe in your own instincts and the looking-glass rather than the *dicta* of the dressmaker, and modify modes to suit your personal peculiarities. How is it possible for a tall woman and a short woman to wear garments of the same style without one ro the other being sacrificed ?

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

◎列女傳

○瞽女梅澤豊の傳

終日木枯の風吹きすさびて八山あらしに木の葉散りみだれ海のおもても波立ち騒ぎて時々しぐれさへ運びくる只ならぬ空のけはひに漁士のとぶねも夕暮を限りに漕ぎ歸りて沖の方いと暗う覺束なげなるに燈臺の火影のみ雲間の星に光輝爭ふさまなる冬の夜のもの淋しきに怪しげなる笛吹きすまして北ざまより宿の方とこゝろざして行くハ年齢五十にハひとつふたつ劣るべく見ゆる瞽女なりけり此寒さにもかぢけずよく稼がるゝにおのれも今橋むかふより三田迄といふ檀那を讓り受たれば是を限りに歸らむと思へば夜更けぬ程に歸るこそよけれなど行違ひざまにいふハ同じ長家に住める車夫なるべし此乘りたる人ふと耳とゞめて今おこととの聲かけしハ揉療治する者とおぼしきが今此南をさして行くハ貸座敷を花主にして通ふにやと云へば此車ひける男ハ氣息もたゆげに彼按摩が奇特なるハ誰知らぬ者もさふらはず住むところハ高輪車町にて名ハお豊といへりおのれが其近傍に住つきし比より六十餘り七十にもやと思ハるゝ老媼の家にあるにかしづく体の尋常ならぬハ瞽にてハ殊に得がたかるべき孝女かなと褒しに知る人ありて詳に語るを聞けば愍然に悲しきことの種々あるものにて其老媼ハ母にハあらで主とたのみし人の零落はふれたるにてろさふらへ此人ハ初め西久保のある町に聞えたる商人の家の寡婦にて子といふ者の絶て無かりしかバ本夫何某のみまかりし後夫婦養子といふを迎へて營業の道ハいふも更なり家の事ども悉皆讓りたるがなさぬなかの子なれバ意に叶ハぬ事などもありしにや又さらぬも一處にあると厭ひて殊更に別居しつるにや麻布我善坊町にさゝやかながらも清げに家作りして其處に移り住れぬ此家にかねてより雇ハれ居たるハ彼お豊にて心ざま怜悧く容貌も醜くからねば嫁にほしともいひ聟にといふもありしかどこれも双親にハ早く死別かれ些の由縁をたのみて此家に來ぬるなれバ愍ひに男もちて苦勞せむよりハ只斯てあるが心やすくてそなど折に觸れてハいふことのあるに此隱居の意にもかなひて有しかば他人と附けて召仕ハせむとならば彼にまさる者ハあらずと請るれば此方も亦同じくハ多年なれつかへ參らせつるなればよしや定給ハ三つが一つになりぬとも何か厭ハむ湯錢髮結錢ばかりの物賜ハらバ外にハほしとも思ハず舊のまゝに召仕ハせ賜ハゞ夫にまさるとハ侍らずなど切にいへば

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

然らばお豊をつけ參らせむとて其時より此隱居の別宅の人と〻なりぬる本宅はいと富有に物不足なきよまして斯義理あるなかなれバ月〱の賄料はいふに及ばず夏冬の衣服何くれとなく送り來ればお豊もこの餘慶とうけて憂きこと知らず只心ひとつに此寡婦につかへたりしに西久保の家を受繼ぎたる後の主人は營業の道にうとかりしよや又思懸けぬ不幸などのありしにや活計も思ふま〻にならずなりしのば養母への送りものも月々にれくれ勝になり果ては大いに減ずるやうになれるだに心細くいと物憂きに此比よりお豊は眼の病に罹りて晝間は強て厨の事どもゝすれど夕暮よりは痛みつよりて堪へがたしといへば何事も打棄てれけかし我斯

七百五十五

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

てある程はともかうもしてむと曲れる腰かい撫つゝ炊きのひざなどするをお豊はさても得あらず猶かにかくに立働らけど足もとさへたど〳〵しければ井の端の小石に躓きて轉びたふれて衣うち濡すこともあり戸口の柱に頭うちあてゝ血あえあから入り來ることもあればこゝの眼藥かしこの眼科醫と療用に手を盡さすれどもちとの効驗もなくて遂には全く盲とぞなりぬるお豊は我が身のたよる方なきを熟く思へばこの家を出ては道傍に餓ゑて死ぬる外なけれどさりとて齡高き主人に養はるゝも亦心苦しき限りなれば如何かせむなどくり返しかきくどくを主人の寡婦もうち聞くたびに慰めがたくは思へど多年隔てなく仕へて忠誠〳〵しかりしものと今斯くなれりとて情なく逐ひ出さむはさすがにて假令ものゝ用にはたゝずとも愛きを語らふ友にはなど思ひかへすなるべし涙ながらにさる甲斐なきことないひろ雇ふも雇はるゝもそれはうたの因緣なくてやはあらぬたゞ心ながに斯くてあれかし物の黑白のふつに見えぬが年歷て癒えたる例も多かればひたふるに歎くことかはされど朝夕の烟さへから細りのみゆけば其處にこゝろれくも道理にはあれど一杯の飯粥だにあらむ限りは半づゝだに啜りてむ夫ものなはず餓死ぬべくは同じ枕にと思ひ定めよなどいと懇ろよいへばお豊はよゝと泣きて掌うち合せつゝ如何なる宿世の契約ありてか惠み深く斯のたまはすらむ我こゝろ慰めもし御心弱さをいさめも參らすべきに甲斐なくなれる身のいとど愚になりて反對にさる御諭を受るとの畏さよとて霎時は面もあげ兼つゝ喘ぎ〳〵語るほどに此車三田の某町に來つきしかば乘たる人は愍然なるよと耳とゞめて定めの代の外にも物とらせなどして猶門のうちに呼入れしは此お豊の身の上のさまを詳らに問ひ聞かむとの事なるべし　（以下次號）

前號プリンシートの傳初の下段十三行武右の下衞の字を脫す又末の上段一行睦じ●れし。同十八行引續き集めてとあるは集めて引續きの轉倒下段一行多け●ゝの。は衍なり

◎雜記

○東京流行の髮飾

孫にも衣裳髮容貌といへる俚諺はさる道理にて殊に婦人は衣服と髮の結振り頭の裝飾に意を用ふるものなるがゆゑに婦人社會の流行をいへば必ずまづ髮と衣服なりさて東京にて衣服の流行は曾て本誌に掲げたりしが目下流行の髮の結振り頭の裝飾などの大概を述べ立つれば第一に束髮の流行にて就中貴

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

婦人と稱へらるゝ方さゝの殆んど束髮とならせられざるは無きほどなるは夜會宴會などの席に於て日本風の髷を見受ることの稀れなるにても明かなりさるからに何事も上の好む所は下これより甚しきものありとさへいへば中流の社會にまでは既にこの流行を及ぼし益々開けゆく有樣なるはいと喜ばしき事どもなり今の流行はたゞに束髮とあるまでにて巴里や倫敦などのごとく時々束髮風の新樣が流行するとまでは行かざれどもこの勢ひにて愈々開け行かんには下流の婦人にまでも及ぼ乄全國一般頭髮だけの改良はその望みなしとそべからず中には三ッ紋などの日本服を着け足に靴を穿きたるが白縮緬の湯卷を蹴出したるは記者が望蜀の欲心よや序でのことに服をも洋服に改めたき心地ぞする扨まゝ日本風の髷の流行は此ごろ時事新報に委しく記したると記者の見聞とを交へて記るさんに當夏以來目立ての流行といふは櫛卷にて是までは髮を洗ひたる後ち髮結のいまだ來らざる前などに一寸結びおくまとなりしが彼の束髮に似たるところより今は表て晴れでの髮となり櫛卷櫛とて凸なる三ケ月形ともいふべき櫛を賣り出すに至れり（黑地の鼈甲なり）然れども極つた席には出でられざるべけれどもこれより進化して束髮となるは蓋し一投足ならんと察せらる扨て古風髷の流行は十七十八歲より十九歲の間にてはまづ一般に嶋田髷なりとはいそずものことにて嶋田高髷、いゝわだ、藝子、小田卷、つぶし、千鳥、毛卷、くづし抔あれども嶋田崩しは年增の受け持にて毛卷は凶事に限り千鳥はいつしか飛び去りて跡と留めずされば十七歲ばかりなるには高髷いゝわだの二樣なり高髷は極人柄にて大抵十七八が止りなれども素人の娘は十九までも延期をなし髷の太さは前が六寸にて一が（後の方をいふ）三寸五分根掛は五分の金輪なり右のら平尾形鼈甲の突き透しか五寸四五分の長さにして左りは珊瑚の四五分珠にて金足五寸は蛙股が目下の大流行櫛は黑地鼈甲よ唐草または蔦紅葉などの蒔繪入にて角利休形が十中の八九に居り前髮二寸に前こぞは鼈甲または銀の平打ならん次にいゝわだも高髷と負ず劣らず流行なし遙かに派出めけとも髷の眞中のくびれたるが第一の相違なり扨て切れは緋か淺黃の絞りにて右方に金無垢牡丹の平打は少し横によれども婀娜ならず左頭に時候の花簪は少し前にさして愛嬌あり櫛は三日月形朱塗の蒔繪にて前こぞは前に變りなし總て蟬髮の以前より一寸ばかり多く出て裏髩の一寸ほど詰りしは近頃にての變化なり這は島田に限らず一喋も天神も皆同じ扨てまた廿歲よ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

り廿四五までは藝子、小田卷、藝子つぶしの世盛りにて粋なりといふもこの年齢ごろの事なりける藝子嶋田も蟬鬢出の工合は大抵前と同樣なれども裏髩は高髷ほどに詰めず髷の太さは一が二寸二分にて前が五寸五分尤も前耳へ思ひ切ッて出すが流行根掛は例の珊瑚珠にて十が十奴元結なり櫛は高髷と變りなく簪の平尾形玉足鼈甲を横に一本ざりさしたるは飽までも嫌み除きの飾りなり藝子つぶしは奴元結に葛引にて藝子と變りなく小田卷は潰しの横に別にばら毛を掛けたるものにて毛の上に幅一分の葛引はこのごろ流行の盛りにて鼈甲琴柱の簪もまた小田卷に釣り合ひたる飾りところは知られぬ

○學校家庭子女輕患微傷手當法(前々號の續き)

〔下痢の手當〕度數少なく閟結して痛みを覺ふるときはカストル油一茶匕より三茶匕までの分量へ阿片丁幾一二滴或は三滴を加へて與ふるも良し若しまた度數屢々なる時は炭酸石灰合劑一茶匕宛を一日三四回與へて倘ほ數日に渉るときはドーヴル散および灰色散(水銀と炭酸石灰)各々一ゲレインづゝを一日三回與ふべし食物は粥葛湯等の類に限り飲物は石灰水と牛乳と同分量を合したるものか薄き葛湯の類に限るべし

〔秘結の手當〕日々便通なきときは別に藥用するにも及ばず蒸餅オートミールなどを食するのみにて事足るべしと雖も倘ほ強く秘結するときはカストル油四茶七或はセンナ舍利別一二茶匕を用ふるかまたはマグチシヤ拾ゲレイン十五ゲレイン時としては廿ゲレインを用ふれば大抵は功を奏すべし鹽類その他の下劑を緩なる秘結に用ふるは却てよろしからず

〔風邪及び咳嗽〕風氣に侵されたる時はその初めに當り手當をなすべきことにて平生よりは身體を温かになし夜に入り脚を温湯に浸しながら或る温かき飲物を飮ませ直ちに寐所に入るべし通例の風邪はこれにて癒るべし若し癒らざる時は病勢の增殖を防ぎ隨ひて生ずる咳嗽などのごとき病ひの手當をなすべきことなり

咳嗽には乾咳とて痰を吐かざると緩咳といひて痰を吐くとの二種あり乾咳には八滴より十滴までの吐根酒に少しの砂糖と水を和し四時間毎に與へ若しまた皮膚の熱甚だしく胸部に痛みを覺ふる時は右の藥劑にアンチモニー酒半茶匕と和して與ふへし緩咳の甚だしき時はカムフオル合劑二茶匕に海葱舍利別半茶匕を加へ與ふべし痰の澁滯する時は吐劑として吐根末廿ゲレインを一杯の温湯にて與ふべし

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

〔耳の痛〕には巴布などの法により耳を蒸し強下劑を與へ食物を扣えしむるを以て普通の手當法なりとす

〔眼の充血症〕普通に充血症或は炎症とは稱ふれどもその種類甚だ多く醫者の治療を乞はずして素人の取扱ひ得べきものにはあらざるなり然れども一寸したる充血など一コップの微温湯に三グレインの皓礬を解かして洗ふべし上下の眼瞼密閉する時は夜寢所に入る時家猪脂を両眼瞼に塗りおくべしこの病中は便通をよくすべしといへども下痢せしむるには及ばぬこの病は小兒にありては殊に傳染し易きものなれば他の小兒に觸るゝことなくまた病者の用ふる品物に至るまで注意すべきことなり

〔打傷〕打傷をなしたる時はその場所腫れ上りて赤くなるものなり此赤色は間もなく紫色となり追々癒ゆるに從ひ青色となり黄色となり終りに從前の色に復し傷を受けたるより全く皮膚の色の舊に復するまで大抵十日或は十四日なりとす輕き打傷にて剝傷なき時は酢と水とを交へてその場所を洗ふべし重傷の時は勿論速に醫者を招きて治療を乞ふべき事にて素人よて水蛭などを着くべからず皮膚の色を去るには鶏卵の肴白にて明礬をよく煉りて着くべし（未完）

○婦人の心得（對譯欄内の譯）

社友より寄せられたるドント（爲す勿れ）といへる小冊子は歐州の禮法中通例人の誤ち易きものと矯め直さんとて一箇條毎に爲す勿れと誡めたるがゆゑにドント（DON'T）と題するなりその中に特に婦人に忠告する一章あり即ちその原文は前號より對譯欄内に載せたれば今こゝに前號と本號とに掲げたる譯文を左に出し尚は號を追ふて掲ぐべし因に記すべきは郵便報知新聞に米國禮法として日々掲ぐるものは此書と同一のものならんと思はるれども此書は倫敦出板の書なるに殊更に米國とせるは如何なる意か解しがたし

衣服その他の裝飾具を度に過ぎて飾ることなかれ○○○婦人の衣服を餘りに飾りたるは野蠻の趣味を去ること遠からず且つ常よ簡約を旨とする美の原理を知らざる事を表はすなりされば總ての事の度に過ぐるは鄙賤の事となすべし（以上は前號對譯欄内に載せたる原文の譯次項は本號に掲げたるの譯）

流行に倚り從ふことなかれ○○○裁縫家の勸めよりも寧ろ我が嗜好と姿見鏡とを信じ我が身の格好に相應せんことを勉むべし脊高き婦人も脊低き婦人も同一樣の衣服を着んよは何れか一方は不似合の犠牲とならずては叶はざる事なり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎新作物語

○巣守の妻　第十一回

春のや　主人稿

「おッかさま瀧口さんからお手紙がまゐりましたヨ「ヱ瀧口の
ら妾へか〳〵「イ、ヱ妾へあて〻「それぢやア開封して讀んで
お見よ「チヤ〳〵慈母君大層六かしく書いてあッて「マアサ讀
んで御見よお前も近頃は學問があがッて滅切目が見えて來た
ぢやアないか「ですがチ慈母君こんなに四角な字で………
越野はお民より手紙を受取眼鏡を鼻にのせて兎み角み「ヱー
トなに〳〵ヱート成程むつかしい書やうだチ

辱知瀧口長子謹んで小杜の民子君に白す北風凜々として歳
將に暮んとす起居果して如何過日偶然の幸福にて君の尊顏
を拜し了り敬愛の情實に禁ずる能はず輾轉反側夢寐常に君
を思ふ一日千秋再會を願ふことゝに日あり果せるかな來
週第三日即ち火曜日妾が親戚の少年男女將にシヤトル（劇
場）に赴かんとす豈に君を同伴せざる可けんや乞ふ君一日
の間を盜み敢て慈侍を辭して光來あれ頓首再拜

辱愛　瀧口　長子

民子の君
玉机下

越野は十度ばかり眉を顰めて辛くも讀み取りてホッとためい
き「テモマア恐ろしい用文章これが此節の文句のチヱ成程お
まへには解らぬ筈妾しが讀んでさへもあやふやのやうだヨ文
字はどうかかうか解りますがチ何だか妾しどもが習ッたとは
違ッて何やら用ひ方が變ッてゐるやうだが今は斯う書くのが
流行ると見える「慈母さま折角何ですが妾しには「定し解る
まい然であらうこれはチ大体をザッと話せバ次の週間の火曜
日には劇場へ內輪連で出掛るからおまへにも來てくれろとい
ふ手紙おまへは往ますかへ如何しますへ「チヤさうでござい
ますか妾はアノ何ですかふ劇場は大坂で見ましたきり東京で
拜見した事とてはなし（あとを言ひかねて口もぐ〳〵）「フム
往たいの、ヱ、何も其樣に遠慮するには及ばぬ眞個に往たいな
ら往もよいが………
越野も言ひさして煙草一服又もや胸のうちで物思ひ「先日瀧
口が來りし時もしなくお民女と見られた故まさかに匿し果る
譯にもゆかずさりとて新作の嫁ともいはれず過般の關係は間
違ひなりしがあんまり憫然ある身の上ゆゑ多少の因緣もある
事ゆゑッイに引取ッて養女にした但し嫁ではない極はせぬホ
ンの厄介人でございますヨとボンヤリ吐きなれぬ虛言詐僞そ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

の場ハ冷汗で襦袢もシト〳〵辛と
切り抜て置いたなれどどうして鷹
の眼の瀧口の御しんぞ虚構と氣が
つかないことがあらうぞ扨こそ何
どやらん不興氣な貌附ろの日ハ親
子ともに匆々にして歸ッたその後
又さぶらうゐたちの道恰ど一月程
便りもせず俄のにけふになッて此
文言テモマア腹の知れぬ人達でハ
ある夫に困りきるハお民の坊ちや
ん劇場へ徃きさうな今の口振耻
を買ひにゆくと氣が附かぬか物の
道理義理人情ろく〳〵知らぬ身で
他人との交際一ッ間違へば新作の
耻辱そあたまから、ナリマセヌ決
して徃くことハナリマセヌと辜そ
さういッて止めませう平ィヤ〳〵
今の內ハ下女同様兎に角表向ハ嫁
でハない万一耻をかいて歸ればと

七百六十一

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

て伺しも離縁すれバ其場切のこと、いつそ稽古の爲物ハ試驗かまはず望みどほり遣りませうか何やら不人情のやうでハあれど伜の後の日の爲を思へば無論背に腹ハ換られぬ道理遣りませう〳〵」ト決心して「それでハ徃たけれバ遣りませう程に何とか御返辭と出しておをき」

さすがになさぬ中の姑めの了見勝手に徃なされといはぬばかりなり無心の嫁御寮ハ擲だされて憫然やなか〳〵に嬉しさうな顔色さりとて端たなう莞爾〳〵ともせねど疊へ摺付たる前髪のホツレに無量の「有難う」ハ籠ると知られき

尋常の乙女子なりせば髪よ晴被よと恐しう罵り芝居へ明日徃くべきその當霄ハ且つ強ね且つ浮かれて他さへに寐かさず家内を騒がすべき年齢なるにお民ハ恬としてすましたものなり元髪を結ひ直さむ氣色もなく衣服を氣にかけぬる樣子もなし元來當人の晴服とてハなければ徃る日指圖して縫ひ直させ大概出來あがりし古衣裳のあるのにお民ハあれをしも被てハ徃かぬ歟シツケを掛んとする氣色もなく平氣で明日を俟つハ不思義なこと餘りに身の廻りが醜うてハ到底ハ新作の恥辱になるハテサテ世話の燒る娘でハあるト越野が堪へかねて指圖をなし髪を結ひ直させ衣裳をも變させ別に小使ひさへ幾分か與へて翌日早朝よりいだしやりつ

定めし夜に入らねば歸らぬなるべし夜食ハ平生よりも早く終して但しお菜だけハ取のけて置べし大方歸ツてから喰るであらう妾しハ如何したのか腰が痛うて若や中風でハあるまいのト越野ハ晝頃よりお三を敵手に冬服ひねくりて苦しさうな顔附「それハ御心配でござりまする早うお醫者さまにお見せなされて「サア先達ツてもさう思ツたが聽て放擲ておけバ治るが常のアイタ、、、チヤ〳〵この腕が利なくなツたチヤチヤこれハマア……

越野ハ覺えずも手に持たる小切を忽然と取落して後邊へバツタリと臥仆れぬアナヤと打驚くお三の狼狽「奥さま御隱居樣モシ奥樣お氣をシツカリと」と抱起す、機會に急しきお民の足音「只今慈母さま」も力無げり○何故に斯く早ハ歸り來にけん何故悄然して歸來しぞ今日の挿畫と共に次號にて說べし

◎家政要報

○爨婢の事(前號の續き)　爨婢の取扱ふ事々物々みなその順序よく整ふべきことにて戸棚板の間などハ常にふき立てゝ一點の汚れなからんことを勉めしめ鍋釜その他の諸道具ハみ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

な置くべき所仕舞ふべき所に仕舞ひ常にその置場所を換ふる事あるべからず鍋釜皿鉢の類など其所此所と取り散らしおく時ハ手近のになりて入用のときに臨み甚だ便利なるがごとしといへども其實決して用便ならず却て何時も置くべき所に仕舞ひあるこそ急場の間にハ合ふものなり且つ斯くしだらなく取り散らしおくがごとき女ハ日々の仕事に追はれ万事清潔になすことにハ手の廻り兼ぬるものなりされバ婢僕たるものハ前にもいへる清潔と順序と仕事の規律との三つと兼ねたる性質のものを要するが上に尚は今一つの箇條ハ經濟の一點なり即ちムダ事なからんとを要す他の召使ひと違ひ婢僕ハその家の勝手元の經濟に直接の關係ありと知るべし婢僕の約やかなると不注意なるとハその家の經濟上に大なる影響を來たすなりこゝに意を用ふる女ならんにハ食物などよく見繕ひて殘餘を捨ることなくまた不注意なる女ハ漬物などに至るまで多く餘りたるを捨てゝ塵溜にハ常に食物の堆きを見るべし故に斯ることによく意を用ふる婢僕にハ主人もまた時々心附など遣し益々賞勵すべき事なりこれ一家を修むる經濟の端なり(完)

○婦人の洋服地　ハこれまで多く舶來品のみなりしが京都西陣の織殿にて新たに緞子の洋服地を織り出したるを京橋區山下町平嶋商店にて賣捌くよしなりその價ハ幅二尺三寸にて一ヤール一圓七十錢より二圓八十錢までなりと聞く

○婦人の帽子　もまたこの程横濱に着荷せしを日本橋の白木屋にて一手に買ひ取りたる趣きなるが色地ハ紺、茶、鼠等にて代價ハ一つ三圓より七圓位なりと　(以上二件報知新聞)

○新鱈　の小賣相場ハ上等一尾十三錢より十五錢中等十錢より十二錢位下等六錢より九錢位にて風味もよしといへば歳暮の遣物などにハよかるべし

○新海苔　ハ品川海より大森へかけ本年ハ近年になき上出來にて先月末より採取にかゝり今月十日ごろにハ賣出すなるべし昨今の見込にてハ新海苔極上一狀十錢前後上ハ六錢位ゐならんといふ

○漬菜　ハ本年不作なりし故か昨年よりハ高く目下本場三河嶋菜上等一樽三十五錢中等三十錢下等ハ廿七八錢の由

○糯米　ハいまだ出初めなるが小賣相場ハ一圓に付上一斗三升より五合まで中一斗四升五合より五升まで下一斗六七升ぐらゐにして本月中旬に至るも高くなる景氣なきよし

○白米　一圓に付一等米一斗三升五合、二等米一斗四升、三等米一斗四升六合、四等一斗五升六合、五等一斗六升九合

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○畫工のはなし

昔しグリーキ國にシユーキシスといへるいみじき畫工ありて殊に葡萄を畫くに妙なりけるまた同じ國にパルハシオスといひていみじき畫工あり互に技を競ひ合ひたりければ或る日二人の畫を競べ見つべしとてシユーキシスは得意の葡萄を畫きたるを出せしに忽ちに小鳥來りてその實を啄まんとぞなしけるシユーキシスは之を觀てパルハシオスに向ひいと誇り顔よいざその幕を取りて貴公の畫けるをば疾く見せずやといひけるにパルハシオスはたゞ微笑てありけるにぞ能く見れば幕と見えしは眞の幕にはあらずして板に畫きたるなりければシユーキシスは途息つき我は僅かに小鳥を欺きたるに貴公こそれ畫工を欺きたれと嘆きしとぞ

○隱す事は我より顯はる〻　散遊亭　園蝶　述

相變らず何かお笑ひ草よ一席辨じます、扨て犬にも私しの様な愚鈍ものがあると見えまして友人の斑犬が「オイ赤どうした大分から口の端を甞まはして居るナア、何して赤「ア、今彼所で牛の骨を嚙ッたからだ斑「止せへ外聞が惡いやア、骨なんぞを嚙る奴があるものか、第一骨を嚙ッたかふッて人イヤ犬が問ふたら肉を喰ッたといひねへナ、誰も見て居たんじやアねへからさう云やア肉を喰ッたのゝと思はアナ赤「成程さうだナア、誰か出會まへて肉を喰ッたと云ッてやらうと、思ッて居るところへ、向ふからまた友達が參りました赤「オイ〳〵黒公黒「誰だ、ヤア赤公の何處へ往んだ赤「私らの口の端に何か附ちやア居ないの黒「ヤア大分甞廻してるなア、どうしたんだ赤「今彼所で肉を喰ッて來たんだ黒「感心ダ、話せるナア、餘程やつたか赤「この位る長のを二本やつた黒「人をイヤ犬を馬鹿にしてらア、肉じやアない、骨を嚙ッさナ赤「お前は後で聞てさナ黒「聞きやアしねへが、長いのを二本といふから分ッたんだ、氣働きのねへ奴だナア、同じ事でも此位大いのを二切やつたと云ひねへナ赤「違へねへ、さうだ二本といッたから知れたのだ、大に有難う黒「確りしねへヨとこれから別れて赤犬は横町へ曲ると見知の女犬が聲を掛け女犬「オイ赤さん何處へお出だ赤「今日は、好い天氣で女犬「些と話しにお出ナ、大變よ口の端を甞廻してお出だねへ赤「ア、今彼所で肉を喰ッたんだヨ女犬「さうかへ感心だねへどの位おやりだ赤「此位大いのを二切やッたヨ女犬「オヤマアお前丸呑にすると毒だヨ赤「ナア

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に暫らく噛ッたが固くてサ

○數學問題

甲乙丙の三地あり甲丙の間ハ廿五里廿二丁十七間二尺甲乙の距離ハ十八里三十丁十五間四尺依て問ふ乙丙の距離幾何

○考へもの〻題

左の歌ハ本邦歴史上の婦人にて誰を詠じたるや

秋に逢ふうきみの果に比ふれば枯る〻さか野の草も睦まし

○前々號數學問題の答式

(甲)

$35+42=77$

甲 $\frac{35}{77}=\frac{5}{11}$

乙 $\frac{42}{77}=\frac{6}{11}$

$2300+10=2310$

$1:2310::\frac{6}{11}:x$

$x=\frac{2810\times\frac{6}{11}}{1}=1260$

$2800-1260=:1040$

答 甲千四十圓 乙千二百六十圓

(乙)

$\sqrt{2304}=48$

答四十八間

解答者

(甲乙)東京中村のね子、三輪誠一、内海常三、山梨三田

(乙)東京中根

○前々號考へもの〻答

をの字(解答者)答者廿一人の内一人も當らず

◎寄書

○姙婦の攝生法　　飯倉片町　糸の家主人誌

左の諸條ハ余が師より聞たるものなり今筆記して貴社に投ず願くハ餘白を貸し賜はらんことを

姙娠ハ婦人の一大難事なれば充分其攝生法を行はざる可らず然ども其法種々ありて單簡に述がたし故に玆にハ誰人にも行ひ得らるべき法の概略を述ぶべし即ち(第一)清潔法にして殊に產門に於て然とす若し淋毒或ハ白帶下ある時ハ直に醫療を乞ふべし生兒の急性膿漏性結膜炎(眠病の名)なるハ白帶下と患ふる所の產門を出るに因るなり故に是等のものに於てハ攝氏廿六度位の温水にて時々洗滌し新鮮の大氣中に於て適宜の運動をなすべし(第二)姙娠中ハ便秘し易しこれ運動不足と水分多き食品を取ざるにあり故に食物ハ可成消化し易くして水分を含有するものと與ふべし又姙婦に水を飲用せしむるも良し(第三)日本の習慣にて姙婦ゟ非常に滋養物を與れども平常慣れざる品ハ却て食慾を害するとあり故に通常の食品を取しむべし又酒類の如きハ宜からず然ども少量ハ妨なし(第四)劇き運動ハ甚だ害あるが故ゟ適宜に運動せしむべし高下駄或ハ車に乘り身体を動搖る時ハ流產の恐あり衣服ハ隨意なるも決て帶を緊搏る可らず(第五)小便排泄の意起る時ハ直に排尿し決て耐忍す可らず(第六)姙娠中山鳥の尾上陥るが如くなすに及ざれども臨月ゟ至てハ愼むべし(第七)精神の感動も避る樣注意をべし是れ早く分娩するの恐あればあり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

廣告

教育時論第五十八號

明治十九年十一月廿五日發兌　一册定價郵税共金六錢

○社說東京茗溪會ノ事如何○禁酒論（高嶋平三郞）實物教授論（郡司篤則）○學術哲學道中記（井上圓了）圖式教授法（福地復一）○雜說じろんのすさび（ゑ、ひ、）英文二節、月夜淸談、家庭教育○論題、自由運動ト紀律運動トノ得失如何（八篇）小學生徒ヲ奬勵センカ爲メ筆墨紙ヲ賞與スルノ可否（三篇）論題、孩兒ノ泣ク癖ト惡意地トヲ矯ムルノ良法如何（村尾愷太郞）猥褻ノ俚謠ヲ改良スルノ策如何（宮莊太郞提出）○內外雜纂三十件○官報抄錄三項○廣告十數件○

發兌所　東京下谷練塀町十四番地　開發社

田中從吾軒先生著
令弟　小永井小舟先生評
門人　三木貞一校

郵税不申受

○警醒鐵鞭

天堂記　地堂記　魔界記

木板精到半紙摺唐本仕立
全一冊　定價金卅五錢

從吾軒先生ハ佐倉ノ宿儒也經史ノ蘊奧ヲ極メ詩文一世ニ傑出ス然モ放縱高踏自ラ隱晦ス嘗テ戲ニ警醒鐵鞭ヲ著ス言ヲ天堂地堂魔界ニ托シ以テ平生ノ蓄積ヲ發ス罵詈痛快忽ニシテ神感シ鬼哭シ忽ニシテ天笑ヒ人泣ク鐵鞭ヲ以テ尺餘ノ珊瑚ヲ一碎スルカ如シ是レ先生ノ一遊戲ニ過ギスト雖モ趣向命意一句一章ノ苟モセザル以テ文章家ノ龜鑑ト爲ベシ弊舖之ヲ請ヒ且令弟小永井先生ノ評ヲ得テ今度上梓賣出ス世人一讀メ未タ斯文ノ地ニ落サルヲ知レ

東京京橋區三十間堀　九春堂

教育雜誌

每月二回發兌●正價一册金八錢●全國中配達無料●前金の外ハ一切逓送せず●郵券代用の向ハ遞送費御自辨●割引半年分金九十錢●一年分金一圓六十八錢●二年分金三圓十二錢●本月二十五日第十八號刊行●目錄合計二十五件

本誌ハ靑年學生の智德を發育するを以て目的とす●記載種目ハ●官令摘錄●社說●學術（地理、天文、修身、法律、論理、心理、修辭、衛生、理化、博物等）●技藝（書畫、音樂、遊戲、農業、工業、製造、器械、園藝等）●傳記●史談●歌俳詞曲●詩文●漢學講義●隨筆●懸賞論文●隱語寓言●算術●復文●格言●學事質問●顯才藝苑●中外雜報●羅馬字談英學獨修（リードル獨學、地理書獨學、會話獨學等）等にして每號處々密畫を挿入し印刷鮮明、紙質上等世間實に其比を見ざるの良雜誌なり

本誌ハ夙よ開卷有益、學生必讀の好評を賜ハり益勉强紙面改良仕候處先頃より

內省明宮樣の御覽の爲

各地の師範學校中小學校等より引續御注文を蒙り社運日增隆盛相成候に付ては尚ほ此上とも好材料を博集し江湖諸君の御愛顧に相酬ひ可申何卒家に修學の男女子あらせらるゝ御向ハ陸續御用向の程厚望の至よ奉存候

敎育雜誌　學藝雜誌

發行所　東京淺草區南元町廿四番地　賛育社

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵稅壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同　拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同　二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同　三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同　四拾錢

但シ東京十五區內郵稅不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ務誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵稅共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵券代用ハ壹錢切手にて一割增し●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み其爲替券と水舍へ御送附可被下候　但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所　東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地　績文舍

持主兼印刷人　松本義弘
編輯人　初鹿野銈五郞

東京芝區愛宕町一丁目三番地　大賣捌　修正堂
同　神田區淡路町　同　巖々堂
同　神田區佐柄木町一番地　同　東海堂
大坂備後町四丁目　同　岡嶋文店

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY